

令和3年度 県立那珂湊高等学校自己評価表

No. 1

目指す学校像		【21世紀型スキル：これからの変化の激しい社会に主体性を持って参画し、自ら課題を見つけ、創造的にその課題を解決できる能力等のこと】			
豊かな教養と人間性を育み、地域の未来を担う人材を育成する学校 ①何事にもチャレンジする精神の涵養 ②創造力・企画力・説明力の育成 ③世界を視野に地域貢献 ④21世紀型スキルの育成					
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況	
○成果 ・学力向上推進総合事業における授業改善の取組により、わかる授業を展開している。 ・校内研修等を通して、ICTを活用した授業への取組が活発化している。 ○課題 ・本校の取組についての発表活動等への参加を生徒全体に広げるとともに、外部からの更なる理解につなげる。 ・基底的・基本的な学力の習得と自主的、主体的な学習習慣の確立 ・部活動の活性化と定着率の向上 ・自転車乗車マナーの指導徹底		実践的な学びの深化	ア 基盤としての基礎学力を定着させる。授業、校内研修等の積極的実施 ・教員の指導力の向上：教科会や公開授業、実施方法の見直し、チャイム授業開始 ・授業時間の確保：行事の精選と実施方法の見直し、チャイム授業開始 ・多様な学習形態の研究と実践：少人数指導、TT、ICT活用等 ・家庭学習時間の確保：適切な学習課題等 イ 大学、企業、地域等と連携した取り組みを強化する。 ウ 体験活動や課題研究等の全員実施（参加）を推進する。	B	
		特別活動の活性化	ア 部活動・生徒会活動等への積極的参加を促し、生徒主体の活動を推進する。 イ 適切な人間関係の構築とコミュニケーション能力の向上を図る。 ウ 家庭、地域と連携・協力し、開かれた学校づくりをする。 エ キャリア・パスポートの有効的な活用法を検討し、実施していく。	B	
		体系的な進路指導	ア 3年間を見通した計画的な進路指導により、進路意識を高揚させる。 イ 社会体験等を通して、職業観・勤労観を育成する。 ウ 個別指導等を充実させ、多様な進路希望に対応する。	B	
		生徒指導の充実	ア 生徒一人一人の自己有用感を高揚させる授業づくりや集団づくりをする。 イ 登校指導や校内見回り等により、問題行動の未然防止に努める。 ウ 保護者との連携を図り、より良い生活習慣や規範意識を身に付けさせる。 エ 「道徳」の授業を要として、教育活動全体を通して道徳心を涵養する。	B	
		働き方改革の推進	ア 校務の精選と役割の明確化を図り、勤務態勢の適正化に努める。	B	
三つの方針		具体的目標		評価	次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○豊かな教養と人間を身につけ、地域の未来を担う人材 ①何事にもチャレンジする人材 ②21世紀スキルを身につけ、世界を視野に地域貢献できる人材 ③創造力・企画力・説明力を身につけた人材		B	目指す学校像から、生徒の身につけて欲しい資質・能力や授業等に取り組む目標を設定する。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	①主体的な進路学習や勤労の貴さ、創造の喜びを体得させ、地域産業に寄与できる社会人を育成する。 ②部活動や学校行事等の活性化を図り、総合的な人間力を向上させる。 ③充実した学習環境を提供するとともに探究的な学びを推進し、生徒が自主的に学習に取り組む態度を育成する。		B	コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会と協働し学校のビジョンを関係者・諸機関と共有するための体制を構築する。
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	○やりたいことを見つけて挑戦しようとする生徒		B	入学希望者や中学校関係者に対し、学校が期待する生徒像を明示する。

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教 科	国 語	基礎的な国語能力の向上を図る	漢字学習の時間を積極的に設け、小テストや定期テスト、漢字検定試験を通して漢字の基礎力を高める。	B	漢字検定試験や公務員試験対策の課外を行い資格の取得をさらに促したい。引き続き小テストや漢字学習の時間を定期的に取り、基礎学力の定着に力を入れていきたい。
		学習習慣を定着させる	読書の時間を設け、生涯にわたって読書に親しむ習慣を付けさせる。	A	
		進路目標の実現のための国語力の向上を図る	ノート・プリント・問題集を定期的に点検し、学習の習慣を身に付けさせる。	A	
			新聞記事を活用した授業を行い、社会に対する自らの考えを深めさせる機会を増やす。	A	
			進路対策用ワークや進路に対応した作文・小論文の指導を行うなど、進路に直結する国語力向上のための機会を充実させる。	B	
	地歴・公民	基礎学力の向上を図る	中学時の学習内容とその習得の度合いを確認し、知識や理解の程度を把握しながら、基礎学力の定着を重視した授業を展開する。	B	ICT機器を活用した授業実践についてノウハウを蓄積し、それを科内で共有することでより効果的な授業を展開する。
		基本を理解させ生徒の興味・関心を喚起する授業を目指す	視聴覚教材の活用や、授業における言語活動等を通して、生徒の興味・関心を喚起しつつ、思考力と表現力を育成する。	B	
	数 学	基礎学力の定着を図る	放課後の課外やテスト前の補講を利用して反復練習を行い、進学・就職試験に対応できる基礎学力を定着させる。1年生では習熟度別学習を行い、基礎的な計算能力を身に付けさせる。	B	実際に体験させる場面とICTを活用する場면을積極的に授業に取り入れ、基礎学力の定着に引き続き力を入れていきたい。
		授業指導技術の向上を図る	グラフや図形など視覚的に捉えさせる学習内容において、ICTを用いて授業を行いながらICTの活用方法を学び、授業力の向上を図る。1年生にはchrome bookを積極的に活用させられるよう、活動内容を工夫していく。	B	
	理 科	知識及び技能の習得と活用	日常生活や社会との関わりの中で、科学を学ぶ楽しさや有用性を実感させる。また、獲得した知識を活用する場を与え、より理解を深めさせる。観察、実験等を取り入れ、生徒自らが探究の過程を通して、それらの技能を身に付けるようにする。	A	授業中の小テストや観察・実験等を通して、知識・技能の定着を図ることができたが、自然の事物・現象の中に問題を見いだす力が足りなかったため、生徒に主体的に学習に取り組ませる授業づくりに力を入れたい。
		思考力、判断力、表現力等の育成	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもった観察、実験を行わせる。実験結果や資料等から考えられることを、生徒自らの力で論理的に導き出し、表現できる力を身に付けさせる。	B	
		学びに向かう力、人間性等の醸成	生徒の学習意欲を喚起し、生徒が自然の事物・現象に進んで関わり、主体的に探究しようとする態度を育てる。ワークシートに学習前後の自己の変容を記録させ、粘り強く学習に取り組む態度と自らの学習を調整する力を身に付けさせる。	B	
	英 語	基礎学力の向上を図る	コミュニケーション活動に重点を置きながら、既習内容の復習を取り入れた授業展開を行う。	A	長期間の休校で、年間をとおしてハワイ研修を行うことが困難であった。一方でICTの積極的な活用をすることで、生徒たちの学習に対する意欲の向上が見られた。しかしながら、生徒の理解を深めることや基礎学力の定着については課題が残っている現状である。
			全商英検3級、実用英語技能検3級以上の受験を促し、個別指導や課外等での受験支援を行う。	B	
		異文化理解を深める	ALTの積極的活用、ブリティッシュヒルズ研修や、オンラインを利用したハワイ研修の積極的参加を促し、異文化理解を深める。	C	
		個々に応じた学習支援を行う	課外や個別指導を行うとともに、授業内ではワークシートを工夫することで生徒の理解を深めさせる。	B	
			定期的な課題出題を行うことで、家庭学習の習慣を身に付けさせ、生徒の学習習慣の状況を把握する。	B	
	保 健 体 育	学びに向かう力・人間性の育成	毎時の集団行動を通して、集団の中の一人としての自覚を持たせる。また、ルールやマナーを大切にするとともに、健康・安全を確保し、主体的に授業に取り組ませる。	B	集団行動を通して、ルールやマナーを大切に活動することができたが、主体的に活動することや他者と協力して活動することに課題が残る。ICT機器は積極的に活用することができたので今後も継続したい。
		体力・技能の向上	生徒の体力・技能のレベルに応じて、各種目の学習方法の工夫改善に努め、体力・技能の向上を図る。	B	
		心身の健康を保持増進するための資質・能力の育成	学習形態・教材の工夫やICT機器を活用し、個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、健康についての自他や社会の課題を発見し、解決に向けて考え、判断する能力を育成する。	A	
	家	基礎知識・基礎実践力の定着	自分の人生について考え、今後生活していく上で必要な知識と技術を習得させ、実生活に役立つようにする。	B	基礎知識・基礎実践力の定着のため、ICTを活用した授業実践を試みた。双方向かつ生徒が主体となる授業実践の
		実習・実技学習への意欲的な取り組み	自分のライフスタイルを把握し、生徒同士が密にならない工夫をした上での実習や実技を通して、生活に密着した知識と技術の習得を目指す。	B	

庭	消費者教育の実践	2022年4月から18歳成人になることを踏まえ、自ら主体的に判断し、適切に行動できる消費者となるための知識を習得する。	B		ため更に授業研究が必要である。消費者教育については、次年度より成人する生徒が在籍となるため、早急に実践したい。
	音楽の基礎となる楽典知識の育成	学習プリントやICTなどを活用して、楽典知識の内容が理解できるように工夫する。	B		Chromebookを活用した創作活動を更に充実させる。ICTを活用した授業内容を研究し、生徒が積極的に活動できるようにする。鑑賞に関して、様々な音楽について調べ学習などを取り入れる。
教	音	表現力の充実を図る	A	B	
		鑑賞する能力を高める	C		
	楽	音楽作品の音色や奏法の特徴、また文化的・歴史的背景を感じながら鑑賞できるようにする。	C		
		演奏発表の鑑賞を通して、お互いの演奏の違いや工夫点に気付くことができるようにする。	C		
	書	書写能力の向上を図る	B	B	ICTを積極的に活用し、効率よく理解しやすい授業の展開に努める。
		表現の能力を高める	B		
	道	用具・用材・用筆・運筆の特徴とその違いについて理解し、幅広い表現の仕方を学ぶ。	A		
		日本・中国の古典について、理論(歴史的背景・成立経緯・筆者・書写内容)及び技術(古典の特徴・運筆時のポイント)を理解させ、臨書作品の制作を行いその成果をあらわす。	B		
		古典学習の内容をもとに、紙面構成や用具用材など、創作作品の制作を行いその成果をあらわす。	B		
		鑑賞の能力を高める	B		
科	情	情報モラル、課題の発見・解決力の育成	A	A	新学習指導要領の実施にともなう「情報Ⅰ」の授業でのプログラミング、モデル化とシミュレーションについて、生徒が理解するように指導法を検討したい。
		情報活用実践力の育成	A		
	報	新学習指導要領に向けた準備および指導法の研究	A		
		学習方法の理解を図る	B	A	積極的にチャレンジする体制づくりを進め、キャリア教育の理解に努める。体験実践型の学習を通して、地域課題をビジネス視点で捉え、学ぶ意欲の向上に努める。個別最適な学びとして、積極的に科目横断的な学びを展開する。地域との協働を積極的に実践してきたが、地域の小中学校を対象にした成果発表、SNS等を通した広報の充実にも努める。今後も積極的な連携を進め、最適な学びを研究する。
	商	授業改善を図る	A		
		授業時間の確保に努める	A		
		体験型授業を推進する	A		
	業	地域貢献等への積極的な参加を図る	A		
		広報活動を充実させる	B		

A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教 務	授業時間の確保 学習評の方法と総括等 の研究	出張・年休等における授業時間の振り替えを徹底し、填補を教科内で行うことにより、授業時間の確保と学力向上を目指す。「チャイム開始」「チャイム終了」を厳守した授業を行うよう教員の意識を高める。新教育課程に対応した学習評価の方法や総括の方法等について研究を継続して行う。	A	B コミュニティ・スクールの実施にあたり、地域と協働した特色ある学校づくりを実現するためのシラバスの作成を工夫する。新教育課程に対応した評価方法の研究を継続して行う。生徒のBYODに対応し、さらにICTを活用した様々な教育活動を継続して研究する。
	広報活動の充実	みらい創造部と連携し、学校案内パンフレット等に新しい広報の方法も加え、中学生・保護者・地域への広報活動を充実させる。	B	
	学習指導法の工夫改善	新学習指導要領に合わせたシラバスの充実を図る。	B	
		教員対象の研修会・公開授業のほか、保護者・地域に対する公開授業を計画し、指導法の工夫改善に努める。 図書情報部と連携し、Chromebook等ICT機器の活用方法を研究し、授業での利活用を図る。	A B	
生 徒 指 導	基本的生活習慣の確立と 規範意識の高揚	遅刻カードの活用、チャイム着席指導等を通して時間を守る習慣を身に付けさせる。 登校指導や頭髮服装指導、職員室入室時の注意等を通じて、挨拶・服装・言葉遣い等のマナーの向上に努める。	B B	B 今後、変更されていくであろう服装・頭髮規定に対応した指導のマニュアル作り。 いじめを認知した際の生徒・保護者(被害・加害側共に)への対応マニュアルの再確認あるいは再構築。 交通事故(特に原付バイクによる)の未然防止のための様々な取組。
	問題行動の未然防止・早期 発見	本校のいじめ防止マニュアルに沿い、情報の共有といじめの未然防止・早期解決に努める。 スマホの正しい使用・マナーについて指導し、SNS上のトラブルや事故を未然に防ぐ知識と環境づくりを進める。	B B	
	交通安全教育の推進	交通安全講話や自転車ステッカー指導、鍵掛け指導、交通安全キャンペーン等を通じて交通安全に関する意識の向上を図る。	B	
進 路 指 導	進路学習の推進	進路ガイダンスや学校見学、インターンシップ等を計画的に実施して、生徒が自己の進路について考える機会や場を充実させる。 また、基礎学力診断テストを利用して、進路実現に必要な国数英の学力を身に付けさせる。	B	B コロナの影響に柔軟に対応し、各学年と連携して進路行事を実施することができた。次年度に向けて、早期から進路目標意識を高めさせるために、3年間を通じたキャリア教育プランを研究し続けていく。
	進学支援の充実	早期から学校研究を行い、自分に合った学校に進学できるように面談等の指導を行う。 大学・短大・看護医療系進学希望者を対象に模擬試験を実施し、受験への意識付けを図る。 あわせて奨学金制度等について、保護者への情報提供を行う。	B	
	求人開拓の継続	積極的に企業訪問を行い、本校への求人を継続してもらおう。また、外部団体と積極的に交流して、新規立地企業や将来有望な産業についての情報収集や研究を行う。	B	

A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
特別活動	生徒会活動の充実	生徒会活動や各行事で生徒主体の活動を推進する。	A	C コロナ禍の中、生徒会活動や学校行事は内容を工夫し、実施することができた。部活動の活性化は、精選も含めて課題が多い。キャリア・パスポートは他の分掌と協力し、活用法の検討等が必要である。
	学校行事の充実	コロナ禍でも学校行事が実施できるよう、計画的に準備を行うとともに、内容についても工夫する。	B	
	部活動の活性化	魅力ある部活動を展開することで生徒の意識・意欲を高め、部活動加入率と定着率を高める。	C	
	キャリア・パスポートの有効活用	部活動顧問が連携して指導にあたり、学年・特活部が支援する。 キャリア・パスポートの有効的な活用法を検討し、実施する。	C D	
保健体育	学習環境の整備	整備委員会の活動を活性化し、全生徒による清掃を徹底させ、校内の美化に努める。	A	A 保護者との緊急時の連絡方法が電話のみであり、健康管理や安全管理の面から、保護者とメール等で連絡が取れるよう図書情報部と協力して確立させる。
	災害への迅速な対応	総合防災訓練を行い、火災や地震、原子力災害時の人的・物的被害を軽減できるようにする。	A	
	健康教育の充実	学年ごとに性教育・禁煙教育・がん教育の講話、応急手当講習会を実施し、身体の大切さを認識させ、健康への意識を向上させる。	A	
	教育相談体制の充実	校内で教育相談を実施するとともに、多様な問題を抱える生徒への対応を図るため、専門家の支援による教育相談体制を充実させる。	A	
図書情報	G I G Aスクールに向けての環境整備、指導体制を図る。	G I G Aスクールの実現に向けて、校内のネットワーク、電子黒板などの環境整備を図り、第1学年の全生徒がChromebookを学校生活で活用できる場面づくりを推進する。 また、全学年の生徒を対象にB Y O D（個人所有端末の持込）ができる体制づくりを推進するための環境づくりやI T機器の利活用の教員研修等を計画的に実施する。	A	B ChromebookやICT機器の活用を拡大したい。 保護者の緊急情報メールの加入率を高めるための方策を検討したい。 校内のフリーWi-Fi、視聴覚室、図書室等の環境整備を推進したい。 コロナ禍における、機器を使用した学習の在り方を考えたい。
	情報発信の推進	W e bページ等を活用して、学校からの情報を地域住民や中学生に積極的に発信できる体制を推進するとともに、緊急情報メール・掲示板・Classroom等を活用し、緊急事態に生徒や保護者に情報が伝わる体制づくりを推進する。	B	
	図書室の環境整備を図る	コロナ感染症対策を十分に行い、生徒の学習や読書のできる環境整備を図る。また、校内に居場所のない生徒が利用しやすい雰囲気作りを推進する。 生徒・職員のリクエストに応えた図書選定を推進する。	B	
	図書委員会活動の活性化	図書委員会の活動を通して、図書の貸出・返却がスムーズに行える体制作りを行うとともに、生徒自ら、新着図書の案内・図書の選定や図書室の装飾などの環境づくりが行えるように働きかける。	B	
	視聴覚室の整備	視聴覚室、視聴覚機器の整備・保守を行い、生徒・教員が興味の持てる、映像ソフトウェアの選定・購入を推進する。	A	
渉外	生徒が充実した学校生活を送れるような協力体制作り	新しいP T A事業のあり方を考え、生徒がより充実した学校生活を送れるような体制作りを努める。そのために、保護者とのコミュニケーションを図りながら、相互の理解を深める活動を行う。 さわやかマナーアップ運動や朝の挨拶運動を実施することによって、生徒を見守る保護者と教員の体制を充実させる。	A B	B 学校と家庭、地域の連携により、生徒の充実した学校生活の体制作りとなるように努める。 ICT環境を活用したPTA事業の実践を考え工夫し、コロナ禍における活動を充実させる。
	保護者のPTA活動への参加促進	広報・研修・生徒指導の各委員会や支部会の運営等、委員長や評議委員を中心に保護者が興味や関心を持って取り組める活動を工夫する。支部組織である体制を強みに、地域のつながりを大切にしながら、一人でも多くの参加を促す。	B	
	創立120周年事業の成功	今年度に行われる予定の周年行事について、校内の準備体制を確立し、同窓会や後援会と連携しながら成功を目標に進めていく。	A	
みらい創造	生徒の創造的な活動と協力した広報活動	教務部と連携を図りながら、学校案内パンフレット等を作成し広報活動を充実させる。また、生徒と共に活動しながらストーリーミングメディアを活用した広報を充実させ中学生・保護者・地域へ本校の取り組みを知ってもらう。	C	B ストーリーミングメディアを活用した広報活動が不十分であるので強化したい。授業力やICTスキルの向上を目的とした校内研修を更に充実させる。
	企業等との連携・連絡	本校の特徴的な取り組みである、「販売実習」や「商品開発」等を企業と連携して取り組めるように、連携企業を開拓したり連絡調整をする。	B	
	教員の授業改善をサポートする環境整備および業務改善	教務部・図書情報部と連携し、教員が授業中に利用可能な環境を整備し、研修会を実施する。また、働き方改革に対応できるようにICTを取り入れた業務改善を提案する。	B	
		生徒が主体的・対話的な深い学びができるような授業を展開できるよう校内研修を行う。	C	

A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
1 学年	高校生としての自覚と基本的生活習慣の確立 基礎学力の定着と課題解決能力の育成	家庭との連携を密にし、生徒が基本的生活習慣を確立できるようにする。	A	A ・基本的生活習慣をしっかりと身につけさせ、学校生活を充実させる。 ・進路に関して、進学希望者にはオープンキャンパスや進路相談会などに参加させ、自分の進むべき進路について具体的な対策などを考えさせる。 ・就職希望者には、インターシップを体験させ、進路選択を考えさせる。 ・自主的な行動ができるよう、学校行事等を通して身につけさせる。
		学校の規律を守り、集団生活におけるマナーを身につけさせる。	A	
		家庭学習の習慣を身につけさせ、基礎学力の定着を図る。	B	
		自発的学習に向かうよう、ICT機器等を活用した環境作りを行う。	A	
		進路ガイダンスや就職セミナー、オープンキャンパス等への積極的な参加を促し、進路情報を目指す。	A	
	授業や個人面談などを通じて、進路目標を持てるような指導を持てるような指導をする。	A		
互いに認め合い、高め合う 集団生活の育成	豊かな人間関係作りができるよう、ホームルーム活動や学年間の交流を密にし、思いやりや仲間意識を育てる。	A		
	自ら考え行動できる主体性を身につけさせる。	C		
2 学年	基礎学力の定着	ONE-WEEKなどを活用して基礎学力を身につける。	B	C ・自主的に家庭学習に取り組めるよう指導するとともに、課外や模試を積極的に活用するよう指導したい。 ・基本的生活習慣を身につけ、メリハリのある生活態度を身に付けさせたい。 ・明確な進路目標を設定し、その達成のために努力するとともに、学習意欲の向上につなげられるよう指導したい。
		各教科から出る課題に対して前向きに取り組み、提出期限を厳守できる習慣を身に付ける。	D	
		課外や模試などを積極的に活用して、個々の実力を伸ばす。	C	
	基本的生活習慣を身につけ、考え・行動できる生徒の育成	場にふさわしい身だしなみや正しい言葉遣いができるようにする。	C	
		他者を尊重し、互いの不足を補い合いながら成長できる姿勢をもつ。	C	
		学校行事や部活動、ボランティア活動などを意欲的に取り組めるようにする。	B	
	進路を見据えた学習への取り組み	社会の現実に触れる機会をとおり、将来の自分を見据えた明確な目標設定をする。	B	
		オープンキャンパスへの参加や模擬試験、検定試験などへの積極的なチャレンジをさせる。	B	
3 学年	進路希望の実現	生徒自ら納得のいく進路の選択・決定が行えるよう進路相談を充実させ、進学先・就職先への対応が適切に行えるように指導する。	B	B コロナ禍における集団行動や自立心の育成を十分に行えなかったことが次年度の課題である。今後もこの状況は続いていく中で、いずれ社会人として必要なスキルを学ぶ機会や自らが気付くような仕掛けを検討していく必要があると感じた。
		オープンキャンパスや会社見学などへの参加などにより、自分の希望する進路先に関する情報を収集、比較検討し、進路実現に向けて自主的に行動できるようにする。	A	
	基礎学力の定着	進学や就職のための試験を見据えた基礎学力の定着を、各教科の授業担当者と連携しながら継続的に行う。	C	
		各種課外への参加や各種検定試験受験を奨励し、学ぶ意欲と個々の能力を伸張させる。また、自ら学ぶ意欲を促し、自宅での学習習慣を今まで以上に身につけさせる。	B	
	社会人になる事を見据えた生徒指導	豊かな人間関係作りができるよう、ホームルーム活動や学年の交流を密にし、思いやりや仲間意識を育て、リーダーを育成する。	B	
		進路決定後は社会人としての意識を持ち、マナーを身につけ、人として充実した生き方を探究する。		

A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない